第2回　茨城県フットボールカンファレンス　レポート

（財）茨城県サッカー協会
指導普及委員長　佐藤　誠一郎

平成22年1月9日（土）ひたちなか市文化会館小ホールにおいて、本県協会主催「第2回茨城県フットボールカンファレンス」が開催された。

ユース年代における一貫指導についての茨城県独自ビジョンの確立をねらいとしたもので、今回もその基盤となる4種年代に焦点を当てた発表を行った。多数の受講者とともに考え、有意義な1日となった。

【プレゼンテーションの主な内容】

1. 第4種技術委員会（U－12）　阿部　信義氏　「4種年代の改革について」
　わかりやすい指導を…
　「茨城」は何をすべきか…テクニック「 止める」「運ぶ」「蹴る」

2. 鹿島アントラーズ　小松　義典氏　「鹿島アントラーズの育成システムについて」
　ジュニア～ユースまで、指導指針のもと将来を見据えた育成システムの構築
　U－12までに習得したいパーフェクトスキル

3. JFAナショナルトレセンコーチ　吉田　靖氏
　コンフェデレーションズカップ　2009　南アフリカ
　世界のサッカーのトレンドを踏まえ、日本の育成への示唆

4. ユースダイレクター　南雲　康司氏　「茨城のサッカー選手育成の現状と課題」
　トレセンでの課題克服とリーグ戦の推進

■技術委員会から次のような提言があった。

茨城県として4種年代で何をすべきか。

攻守において主導権を握るためのテクニック（よい準備，判断のもと）の習得。それをさせるためにも日常の指導の質を向上させなければならない。「指導者の資質向上なくして、よい選手の育成なし」指導者は、子供たちの未来に触れている。

今後も県内でのトレーニング・ゲーム環境の整備と茨城ビジョン（だっぺビジョン）の追求を第3回カンファレンスに繋いでいきたいと強く思う。